

肝細胞癌におけるガドキセト酸ナトリウムの取り込み 不均一性の機序と意義の解明

【はじめに】

ガドキセト酸ナトリウム(EOB)は、肝臓にだけ取り込まれるMRIの造影剤です。腫瘍には取り込まれないので、肝臓の腫瘍を見つけやすくなる利点があります。この造影剤は肝細胞癌という腫瘍には取り込まれることがわかってきており、全世界で研究されています。私たちは不均一に取り込まれる肝細胞癌に注目しています。同じ腫瘍の中でも、取り込みがある部分と取り込まれない部分では何が違うのかを細胞レベルで見たいと考えています。また、そんな腫瘍は再発しやすいのかどうかについても調べたいと考えています。

【対象】

2008年5月1日より2013年7月31日の間に、九州大学病院にて術前にEOB造影MRIを撮像した肝細胞癌の方(約300例)を対象とします。

【研究内容】

EOBを取り込むとされるOATP8というトランスポーターが腫瘍にどれくらい発現しているかを免疫染色で評価して、OATP8の発現を調節する転写因子という蛋白質もどれくらいあるのか調べます。均一にEOBを取り込んだ腫瘍、均一に取り込まなかった腫瘍と比較して、不均一にEOBを取り込んだ腫瘍では再発しやすいのかどうか、患者さんがどれくらい生存しているのかも調べます。

【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

本研究で得られたデータを別の研究に二次利用する可能性があります。その場合は改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認を受けた上で利用します。

【研究期間】

研究を行う期間は承認日から2015年8月31日まで

【医学上の貢献】

肝細胞癌の治療方針決定に寄与すると考えられます。

【研究機関・組織】

九州大学大学院 医学研究院 臨床放射線科学分野 教授 本田 浩

九州大学病院 放射線科 助教 藤田 展宏

九州大学病院 放射線科 助教 西江 昭弘

九州大学病院 放射線科 助教 浅山 良樹

九州大学大学院 医学研究院 分子イメージング・診断学 助教 高山 幸久

九州大学大学院 医学研究院 形態機能病理 教授 小田 義直

九州大学大学院 医学研究院 形態機能病理 准教授 相島 慎一

九州大学大学院 医学研究院 消化器・総合外科 准教授 調 憲

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 Tel:092-642-5695 担当者:藤田 展宏